

The power to do more

私たちがお客様のもとへご訪問いたします。ぜひデルへご相談ください。

デルのソリューションプロフェッショナルが、現状把握・計画・設計・実装・運用管理と、経営・IT戦略や要件に沿ったソリューション導入をトータルにサポートします。

お見積・ご注文・
お問い合わせはこちら



0120-912-174

●〈営業時間〉9:00～17:30（土・日・祝日を除く）
●上記のフリーダイヤルまたは直接弊社の営業担当者までご連絡ください。

デル株式会社
CSMBセールス本部
川崎市幸区堀川町580番地
ソリッドスクエア東館20F

●製品の購入には当社の販売条件(<http://www.dell.jp/smbpolicy>)が適用されます。●製品は、正式受注後、通常約10日～2週間ほどでお届けしております（お選びになった製品、構成内容、正式受注手続きの時期により納期が前後することがございます。予めご了承ください）。●返品・交換は、納品日より10日以内にご連絡いただいた場合に限りお受けいたします。但し、他社製ソフトウェアおよび周辺機器、Dell | EMCブランド製品、Dell EqualLogic ブランド製品、Dell Compellent ブランド製品、PowerVault ML6000 テープライブラリ、スベアパーツおよび消耗品の返品は受け付けておりません。●お客様の都合による返品の場合、返品時の配送料およびご入金時のお振込手数料はお客様のご負担とさせていただきます。●当社物流センター出荷後、お客様のご都合により配送先を変更される場合は、別途同額の配送料を申し受けます。●お支払は、(1) お客様が製品をご購入される場合、現金振込またはクレジットカード決済からお選びいただけます。お客様と弊社との間で別途の合意なき限り、製品またはサービスの代金は、製品またはサービスがお客様に引渡される前にお支払いいただきます。(2) デルリースをご利用のお客様については、月々のリース料はお客様の銀行口座より引落されます。なお、初回のみ12回目のリース料と合計した金額を同時に頂戴いたします。製品は、リース契約成立後に生産手続きを開始いたします。●リースのご利用は法人および個人事業主に限らせていただきます。また、リースは途中解約できません。●法人リース料の金額は事前の予告なく変更される場合があります。●記載されている内容、外観（モニタ含む）および仕様は予告なく変更される場合があります。●他社製機器およびソフトウェアはデル標準保守サービスの対象外です。●Vostro、DELLロゴは、米国Dell Inc.の商標または登録商標です。●Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。●Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel vPro、Intel vPro ロゴ、Celeron、Celeron Inside、Intel Atom、Intel Atom Inside、Intel Core、Core Inside、Itanium、Itanium Inside、Pentium、Pentium Inside、vPro Inside、Xeon、Xeon Inside は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。●その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。



The power to do more

Solutions from Dell

デルが、成長期の企業の悩みをサポートし、成功へのお手伝いをいたします。

vol.2

[Case Study]

株式会社ドーム

コミュニケーション・インフラの
大規模刷新をわずか半年で実現
システムの安定性が飛躍的に向上し
“ドームデジタルワールド”の実現へ

[Solutions]

05

ITインフラストラクチャ・
ビジネス基盤・
エンドユーザ
コンピューティング基盤

07

運用管理の合理化と自動化

09

業務・ビジネスのための
運用管理





コミュニケーション・インフラの 大規模刷新をわずか半年で実現 システムの安定性が飛躍的に向上し “ドームデジタルワールド”の実現へ

「スポーツプロダクト事業」、「スポーツサプリメント事業」、「スポーツメディカル事業」、「パフォーマンスディレクション事業」の4つの事業を展開することで、スポーツ産業における新市場を開拓してきた株式会社ドーム（以下、ドーム）。同社はさらなる事業拡大への基盤固めを目的に、2010年から2014年までに至る中期ITロードマップを策定、推進している。その目標の1つとして定められているのが、あらゆる社員がいつでも、必要なときに容易に情報を入手することが可能なコミュニケーション基盤の整備である。その実現に向け採用したのが、Microsoft® Exchange Server 2010やMicrosoft® SharePoint® Server 2010、Microsoft® Lync™ Server 2010を活用し、あらゆるコミュニケーションツールのシームレスな活用を実現させるデルの提案であった。



「重要視したのは“テクノロジー”
“提案力”“パートナーシップ”でした。それらのすべての面で、デルは高い水準にありました。実際に技術力を目の当たりにしたことで、デルに依頼すればプロジェクトを成功させられると確信するまでに至ったのです」

株式会社ドーム
業務本部情報システム部
部長
渡辺智宏氏

カスタマー・プロフィール

企業名	株式会社ドーム
事業内容	各種スポーツ用品、スポーツサプリメントの製造・販売
本社所在地	東京都品川区
Webサイト	http://www.domecorp.com/

課題

- オフィスの移転や拠点の拡大に伴い、社員間におけるフェーストゥ・フェースのコミュニケーションが困難になりつつあった。
- さらなる成長を遂げる上で、正確で価値ある情報を、いつでもどこでも速く、かつ安全に手に入れられる仕組みの整備が必要とされた。
- メールシステムの不具合やメールの特性により、業務の円滑な遂行が阻害されることがしばしば生じていた。

ソリューション

- 最新のMicrosoft® Exchange Server 2010やMicrosoft® SharePoint® Server 2010、Microsoft® Lync™ Server 2010を導入し、柔軟なコミュニケーションが可能となる基盤を実現。
- ラックサーバPowerEdge R710と、VMEウェアの仮想化ソフトウェアのVMware® ESX 4.1、iSCSI SANストレージであるEqualLogic PS6010XVによる仮想化環境を構築。



株式会社ドーム

社会価値の創造に不可欠な コミュニケーション基盤を整備する

「文化活動であるスポーツを軸に、豊かな国づくりや明るい社会づくりに貢献する」を企業理念に、関連商品の製造・販売を手掛けるドーム。プロアスリートを中心に愛用者の多いスポーツブランド「アンダーアーマー」は、同社が国内での正規ライセンスを務める商品の1つ。また、サプリメントの「DNS」や、スポーツメディカル商品の「ドームメディカルライン」などの独自ブランドも手掛けるほか、アスリートへのパフォーマンスディレクションなど、スポーツを中核に多様な事業を展開する。

そんな同社では、「イノベーション」による“社会価値の創造”を実現するために、代表取締役兼CEOを務める安田秀一氏が率先して、業務におけるITの活用に取り組んできた。2010年には「ドームデジタルワールド」の実現をスローガンに、情報システム部のIT中期計画も策定。ドームの業務本部 情報システム部で部長を務める渡辺智宏氏は、「ドームという社名には、“Dedicated Organization Motivated to Excel”、つまり、自らの意志に基づき、最上を目指して献身する組織、という意味が込められています。IT中期計画ではその実現に不可欠な、正確で価値ある情報を、いつでもどこでも速く、かつ安全に手に入れられる仕組みの整備が目標に掲げられています」と説明する。

IT中期計画が策定された背景には、同社が置かれた環境の変化もある。実は同社は事業拡大に伴う社員の増加を受け、2009年に新オフィスへ移転。以来、1つのフロアが2つに分断され、社員のフェース・トゥ・フェースのコミュニケーションが以前にくらべて取りづらくなっていたという。また、大阪などの国内拠点だけでなく、海外にも拠点を展開。コミュニケーションを密に図るため本社では毎週、企業としての考えを全社員で共有するための全社ミーティングが実施され、社員間ではメールによる各種の連絡が頻繁に行われていた。だが、オフィスの“距離”やメールの特性などにより、円滑なコミュニケーションが困難とされる事態もしばしば散見されたという。

「業務で必要とされる情報は、種類によって特性が大きく異なり、それはコミュニケーションツールでも同様です。しかし、当社ではその手軽さから、どんな情報もメールでやりとりしがちな面がありました。そのため、例えば会議などの連絡の際には、スケジュール変更のたびにメールが飛び交い、情報を整理するだけでも少なからぬ労力が必要とされていたのです。また、メール量の増加に伴いシステムの負荷も増加していました」（渡辺氏）

もちろん、ドームではこの問題に対策を講じるべく、2009年にMicrosoft® Exchange Server 2003からMicrosoft® Exchange Server 2007へのアップグレードにより、情報共有基盤を整備。メール・システム負荷に対する問題を解決した。そして、ドームはコミュニケーションにまつわる業務の無駄を排除し、次の成長に向けた基盤を整えるためにも、さらなるコミュニケーション環境の刷新が不可欠だと判断。そのための製品選定に乗り出した。

「テクノロジー」「提案力」 「パートナーシップ」を重要視

先の新オフィス移転において、ドームはネットワーク環境を強化するとともに、IP電話の利用環境も新たに整えていた。それらを踏まえ、渡辺氏が描いた理想のシステム像は、社員に配布している携帯電話やスマートフォンなども含め、すべてのメッセージングツールが互いに連携し、シームレスかつ誰でも容易に利用できるものだった。さらに、あらゆる情報にアクセスできるとともに、将来を見据えた高い拡張性も不可欠だったという。

これらの要件を基に、ドームが選定したのはMicrosoft® Exchange Server 2010へのアップグレードに加え、最新のMicrosoft® SharePoint Server 2010やMicrosoft Lync Server 2010など、複数のシステムを導入して連携させるというデルの提案であった。デルは、先述した2009年のMicrosoft® Exchange Server 2007への移行をサポートしたベンダーでもある。

その2009年時のメール・システム移行にあたり、ドームは複数のベンダーに提案を依頼したが、当初はデルを導入パートナーに選択する考えはなかったという。サーバの調達においては実績を重ねていものの、過去、デルにシステム構築を依頼したことはなく、これほど複雑なシステムを構築するに足る技術力を備えているのかを推し量れなかったことが一番の理由であった。

だが、Microsoft® Lync Server 2010（当時はMicrosoft® Office Communications Server 2007 R2）を活用した将来を見据えた情報共有基盤のロードマップ提示、そのためのデモ環境の構築など、一連の提案活動を通じて、渡辺氏はデルのインテグレーション能力の高さを強く認識させられたのだという。

「重要視したのは“テクノロジー”“提案力”“パートナーシップ”でした。そのいずれにおいてもデルは極めて高い水準にあることが、提案を通じて容易に理解できたのです。例えば、技術的な質問に対しては、簡単なものはその場で、また難しいものは持ち帰り、社内検証環境での確認やマイクロソフトなどへ問い合わせることで、確実かつ迅速に返答を得ることができました。また、誰に相談を持ちかけても対応してもらえるほどの体制を組んでいた点、しかも、提案内容にも私たちの側に立った工夫が随所に見受けられたのです」

こうした“発見”を何度も繰り返す中で、渡辺氏のデルに対する信頼感は着々と増していったという。そして最終的に、「デルと協力して取り組み、プロジェクトを必ず成功させることができると確信するまでに至ったのです」（渡辺氏）。

グローバルでのノウハウをフル活用 数年がかりのプロジェクトを半年で完了

ドームではプロジェクトの実施に先立ち、2009年5月から社内に整えた検証環境で既存のIP電話とMicrosoft® Office Communications Server 2007 R2（当時の連携確認に着手。この評価結果を基に、2009年7月にMicrosoft® Exchange Server 2007への移行を実施した）。

そして、2011年5月に入りデータセンターの移行に伴う新基盤の構築を行うため、本プロジェクトを開始。Microsoft® Exchange Server 2010へのアップグレードを行うとともに、Microsoft® SharePoint Server 2010、Microsoft® Lync Server 2010の本番サイト構築を実施し、新仮想化基盤へのシステム移行を開始した。

その構成を概観すると、ラックサーバのPowerEdge R710を6台と、VMEウェアの仮想化ソフトウェアであるVMware® ESX 4.1による仮想サーバ基盤を構築。加えて、iSCSI SANストレージのEqualLogic PS6010XVを中核に、膨大なアクセスにも対応できる高い可用性を実現したストレージ環境を整え、その上でアプリケーション群を稼働させるというものだ。また、万一のトラブルに備え、PowerEdge R510とDASアレイのPowerVault MD 1200iによるバックアップ環境も新たに整備。なお、ドメインコントローラーとスイッチには、PowerEdge R410とPowerConnect 6248がそれぞれ採用された。

「システムの運用コストを削減するため、当社ではVMEウェア製品を活用した仮想化環境をシステムに積極的に取り入れてきました。そのことを考慮し、デルはマイクロソフト製



「プロジェクト期間の短縮に直結する移行のアイデアが、デルから過去の経験を基にいくつも寄せられ、それらを採用することでスムーズに導入が進んでいきました」

株式会社ドーム
業務本部情報システム部
部長
渡辺智宏氏



「今回のプロジェクトによって、情報を管理する基盤が変わったことに気づく社員は1人もいませんでした。エンドユーザーに一切意識させることなく作業が進められ、まさに理想の導入の在り方といっても過言ではありません」

株式会社ドーム
業務本部情報システム部
業務システムチーム
佐藤仁彦氏

ドームのコミュニケーション 基盤構築をサポートした デルのアカウント・チーム



SMBセールス本部
アカウントエグゼクティブ
田辺博巳



SMBセールス本部
アカウントエグゼクティブ
小林卓



CMSセールス本部
首都圏営業第二課
伊藤裕一



SMBセールス本部
アドバンスデジタルグループ
テクニカルセールス
レプリゼンタティブ
大森直希

品を利用しつつも、VMwareによる仮想化を提案してきました。ここでもデルの技術力に感心させられました」(渡辺氏)

もっとも、今回のプロジェクトは新環境へのメールの移行作業や、各アプリケーションとのデータ連携に伴う極めて複雑なものである。そこから考えると、移行リスクを低減させることを目的に、動作確認を実施しつつシステムを順次導入する方法が一般に採用されがちだ。ただし、この手法では導入し終えるまでに数年もの期間を要することが明らかであった。

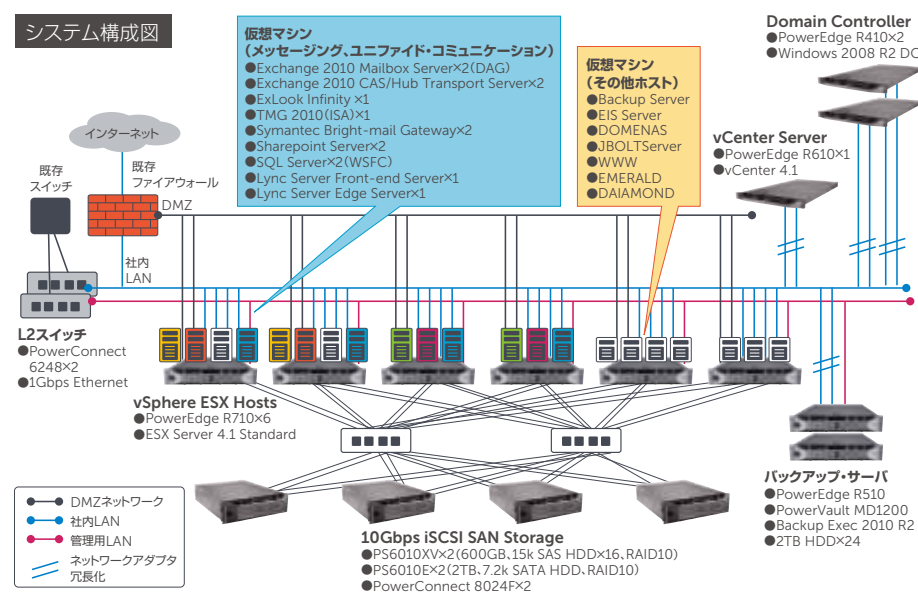
この問題を解決する“切り札”となったのが、グローバルでのシステム導入や、さらにプロジェクトの先行実施期間中においても蓄積されてきた移行にまつわる豊富な経験とノウハウであった。実際に、渡辺氏は「過去の経験を基にプロジェクト期間の短縮に直結する移行のアイデアがいくつも寄せられ、それらを採用することでトントン拍子に導入が進んでいきました。果たしてこれほど順調に進んで大丈夫なのかと、少なからず心配したこともあったほどです」と驚きを隠さない。

一方で、ドームではプロジェクト期間に社員向けのヘルプデスクを設置するなど、トラブル対応の準備にも余念がなかった。だが、最終的に窓口に苦情が寄せられたことは一切なかったという。ドームの業務本部情報システム部で業務システムチームに在籍する佐藤仁彦氏は、「最新のテクノロジーのメリットを享受するために、プロジェクトではまずクライアントのOffice製品を最新バージョンのMicrosoft® Office Professional Plus 2010に更新しました。そのため、インタフェースの変化に関する問い合わせはあったものの、システムの中身まで変わったことに気づく社員は1人もいませんでした。エンボユーザに一切意識させることなく作業が進められた点で、理想とされる導入プロセスと言えます」と話す。

導入作業がすべて完了し、システムが本番稼働を迎えたのは2011年10月のこと。当初は数年を要すると見られたプロジェクトだが、実際に要した期間はわずか半年ほどであった。

“人”と“情報”が的確に結び付くドームデジタルワールドが実現

コミュニケーション基盤の刷新は、すでに業務効率化に少なからぬ効果を上げていているという。代表的なものが、メールの不具合が一掃され、しかもメールゲートウェイやメール転送エージェント



の新規活用によってスパムメールも大幅に削減されたことだ。

また、デルから推奨された次世代のインテル® Xeon® プロセッサー5600番台を搭載したサーバを選択したことで、システムの処理速度も大幅に高速化したという。渡辺氏は、「従来よりも処理速度が大幅に向上していることが体感できます。MPUでこれほど差が表れるものかと当初は驚いたものです」と話す。

一方で、ドームでは新たに導入したMicrosoft® Lync Server 2010やMicrosoft® SharePoint Server 2010の利用を活性化させるために、社員に対して説明会も実施。こうした活動は徐々に、しかし着実に実を結びつつあり、前者では相手の在籍状態などをひと目で確認できるプレゼンス機能が、インスタントメッセージングやWeb会議といった新ツールの利用を確実に後押ししているという。また、後者では今後、全社的なデータ格納におけるルール策定を通じて、利用の底上げを図る考えだ。

「データの管理は主にファイル・サーバで行っていましたが、階層構造が複雑化し、情報の格納場所が分からなくなってしまいがちでした。しかし、Microsoft® SharePoint® Server 2010で整備したポータルであれば、誰でも容易に必要な情報を探し当てられるようになります。その基盤

が整い、いよいよ人と情報とを本格的に結び付ける段階に入りつつあるのです」

内線通話と携帯電話の使い分けや連携などのルールも、社員の利用動向を踏まえつつ策定していく計画だ。

渡辺氏は今回のプロジェクトを振り返るとともに、今後、同社が予定する各種のシステム拡張を展望して、デルに対して次のような希望を寄せる。

「困難が予想された今回のプロジェクトも、デルの手厚い支援によって極めて円滑に終わることができました。さらなる飛躍に向けたコミュニケーション環境を整えることに加え、デルが当社にとって極めて有力なパートナーであることが確認できた点で、今回のプロジェクトは大いに意義があるものだったと判断しています。もっとも、製造や物流などの基幹業務向けのものも含め、私たちが抱えるシステムは多岐にわたります。そこで、今後は私たちの業務により深く関わるこれらのシステムでの提案を期待したい。デルのスキルの高さをもってすれば、我々には思いつかないアイデアを示してくれるものと確信しています」

ドームのあらゆるシステムの活用を支援するパートナーとして、デルが果たす役割は今後、ますます大きくなっていきそうだ。

From Dell Global Infrastructure Consulting Services

今回のユニファイド・コミュニケーション環境の提案にあたっては、第1にメールという、業務上ミッションクリティカルなシステムであることを考慮し、サーバやストレージの二重化、バックアップ環境の完備といった可用性を重視した提案をいたしました。また、2009年より継続して、Microsoft® Exchange Server 2007、Microsoft® Exchange Server 2010へとバージョンアップを重ねたことで、堅牢かつ高いパフォーマンスを有したメール基盤を構築できたものと自負しています。

さらに今回コミュニケーション基盤の再構築ということで、メールをはじめ各種データの新しいシステムへの大がかりな移行が発生することになりましたが、これまでデルが培ってきたノウハウを投入したこと、そしてドーム様からのご協力を頂いたことで、スムーズに終わることができました。

現段階では、コミュニケーション基盤の刷新と各種システムのアップデートを終えたところですが、IP電話システムとの連携をはじめとした本格的なユニファイド・コミュニケーション基盤の拡張、展開にあたり、これまでデルが培ってきたノウハウを活かし、今後もドーム様の業務革新を支援して参りたいと考えています。



デル
ソリューション・サービス・
デリバリー本部
GICSコンサルティング 第2部
シニアソリューションアーキテクト
大川庄一郎



デル
ソリューション・サービス・
デリバリー統括本部
GICSコンサルティング 第2部
テクニカル・コンサルタント
和田健太



デルのソリューションは戦略的なアプローチへの試金石。多様化・複雑化する課題をシンプル・インテリジェントに解決。

デルはグローバルカンパニーです。全世界の様々なお客様へのソリューション支援からのナレッジやノウハウの蓄積があります。ソリューション提供をしつつ、それらをお客様に還元していくことがデルの重要なミッションです。

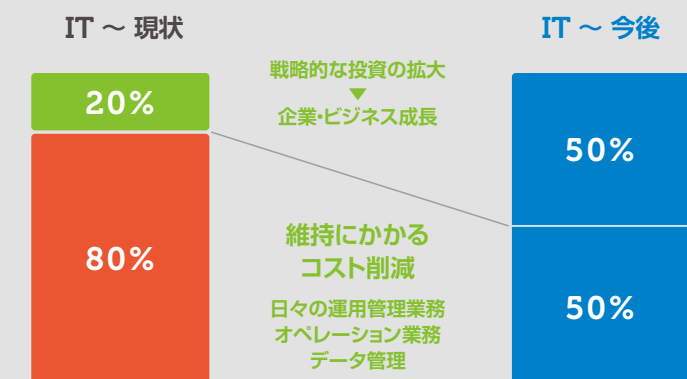
IT部門、IT環境、ユーザが直面している日々の業務の問題の解決策

IT部門他社内各部門が潜在的に持っている、もしくは顕在化している課題の中～長期的スパンで求められる解決策

経営上の課題・命題に対して求められる戦略的なアプローチ

課題は様々です。B2B・B2Cのビジネス形態、業務形態やデバイス、等、対応の検討対象は進化、多様化・複雑化しています。また、IT環境、それを構成するIT機器やITシステムが提供する機能は単なるインフラストラクチャにとどまりません。企業のビジネス形態、ビジネスの成長性を大きく左右する基盤となる仕組み、もしくは原動力そのものといっても過言ではありません。今とこれからを見据えた方針策定と施策、そのための問題・課題の把握が成功への第一歩です。デルが支援します。どのような課題をどう解決したいとお考えでしょうか。お聞かせください。

IT環境・ITコスト



現状

80%が日常的な運用管理に費やされていて、戦略的な投資が思うようできない。

今後

ビジネス拡大のためのITインフラ整備やIT環境改善の投資を強化し、継続したい。

ITのあり方は進化しています。ミッション達成はIT次第です。



ITが左右する重要事項

- 企業とビジネスのゴール・ミッション
- ITサービスの方針と利用者からの期待値
- 障害時・災害時の業務・ビジネス継続性

ソリューション

シンプル、スケーラブル、オープンスタンダード。IT運用管理の観点だけでなく、経営上の観点からのアプローチが必須。

デルからのソリューションは“オープンでスタンダード”を基本として、複雑性の回避と成長・趨勢に柔軟に対応するスケーラビリティを備えています。デル自身、そして、お客様先での実装運用経験からのノウハウ、グローバル規模で蓄積されたナレッジ、グローバル展開で実績を有するプロフェッショナルサービス、グローバルアライアンスに基づくIT業界の主要パートナーとの連携、等、幅広い企業規模や多様なソリューション展開に対応することができ体制を整備し、ソリューション実装で包括的にユーザニーズをサポートすることをミッションとし、日々の取り組みを継続しています。今のソリューションをもう一段有効なものにしたい、近々ソリューション導入を検討している、将来的にソリューション刷新や再構築が必要になりそう、といった抱えている課題、予測される課題への解として、デルのソリューションをご検討ください。導入規模の大小にかかわらず、お客様との双方向でのヒアリングとフィードバックを、オープン、綿密、かつ充分に実施することから、ソリューションの導入に向けたプロセスが始まります。導入後の運用フェーズにかかるコストは甚大です。いかにこの部分を抑え、戦略的な投資を可能にするか、進化と拡張を続けるIT技術の新しい動向に柔軟に対応していく能力を確保する、つまり、戦略的な投資枠を増やし確保していくことが、企業成長性とビジネス成長性を担保するための重要な鍵です。デルは、経営方針・経営戦略と成長性にプラスになるメリットとノウハウを、還元とソリューションを提供していくことで貢献します。

ネットワーク・セキュリティ

IT、業務、経営、他、情報・データを取り巻くあらゆる局面で、ネットワークにまつわる課題は最重要の検討課題となっています。仮想化、クラウドの進化・普及・浸透の潮流の中でネットワークとセキュリティの重要性は日々増えています。ITやビジネスの最重要基盤であるネットワークの接続性とパフォーマンスの確保は当然のこと、高いレベルのセキュリティをどのように確保するか、仮想化・統合化サーバ・ストレージ環境でのワークロード運用にネットワーク環境が最適化されているか、既存環境の調査により顕在化した課題に対しどのような解を選択し適用するか、等の様々な急務の課題がクローズアップされることが増えています。脅威に対し暗号化を施しユーザにフラストレーションをかけないよう運用する、脅威を回避する、脅威に直面した際に迅速に確実に対応できるネットワークセキュリティシステムの構築も必須命題です。



Solution : 01

ITインフラストラクチャ・
ビジネス基盤・
エンドユーザ
コンピューティング基盤

仮想化・統合化・クラウド

仮想化はIT環境およびIT投資の最適化・シンプル化には欠かせない技術として、その存在感を増しつつあります。サーバ、ストレージだけではなく、I/O、デスクトップ、アプリケーションへと、進化し続ける技術を追い風に、仮想化の適用範囲は拡大しつつあります。仮想化をベースとするクラウドコンピューティング、クラウドサービスの進化と浸透も進んでいます。物理から仮想へ、オンプレミスからオフプレミスへ、ハードウェア／OS／ミドルウェア／アプリケーション／プロセス、どこまでを所有するか、どこをサービス化するか、どこをサービス利用に切り替えるか、ソリューションやサービスの有効性はどの程度期待できるのか、といった精査と的確な判断に基づく有効な先行投資、限られた資源を保護、効果の高いIT環境の確保、これらは最重要命題です。

1 IT課題と仮想化・統合化の効果

- インフラの柔軟性や即応性は？コスト効率は？
- アプリケーションが複雑性を増してないか？
- 社内や部門内のフローとプロセスで対応しやすいか？

効率化の阻害要因

インフラ硬直化 ● 物理環境への仮想化導入の障壁 ● テクノロジーロックイン ● 汎用性に欠けるツール “インフラコストを削減したい”	アプリケーション複雑化 ● ISV 対応 ● ライセンスモデル ● 性能 “ITをコストではなく、価値を創造するもの にしたい”	組織とプロセス ● 部門間連携不備 ● 業務のサイロ化 ● 知識・スキル水準の不均衡 ● コスト不均衡 “組織のニーズに即対応できるようにしたい”
--	---	---

- 社内外ユーザのニーズに応える
- 硬直化させない仮想統合
- 余分な投資ではなく効率よい投資



Solution:01

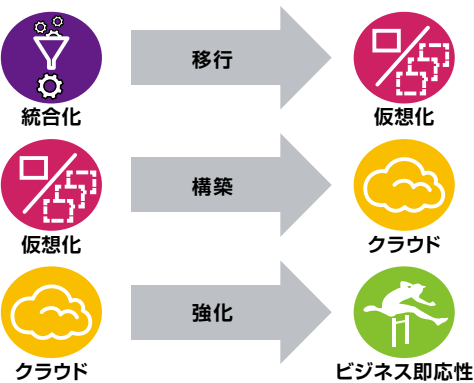


2 ビジネス即応性は仮想化で、そしてクラウドで

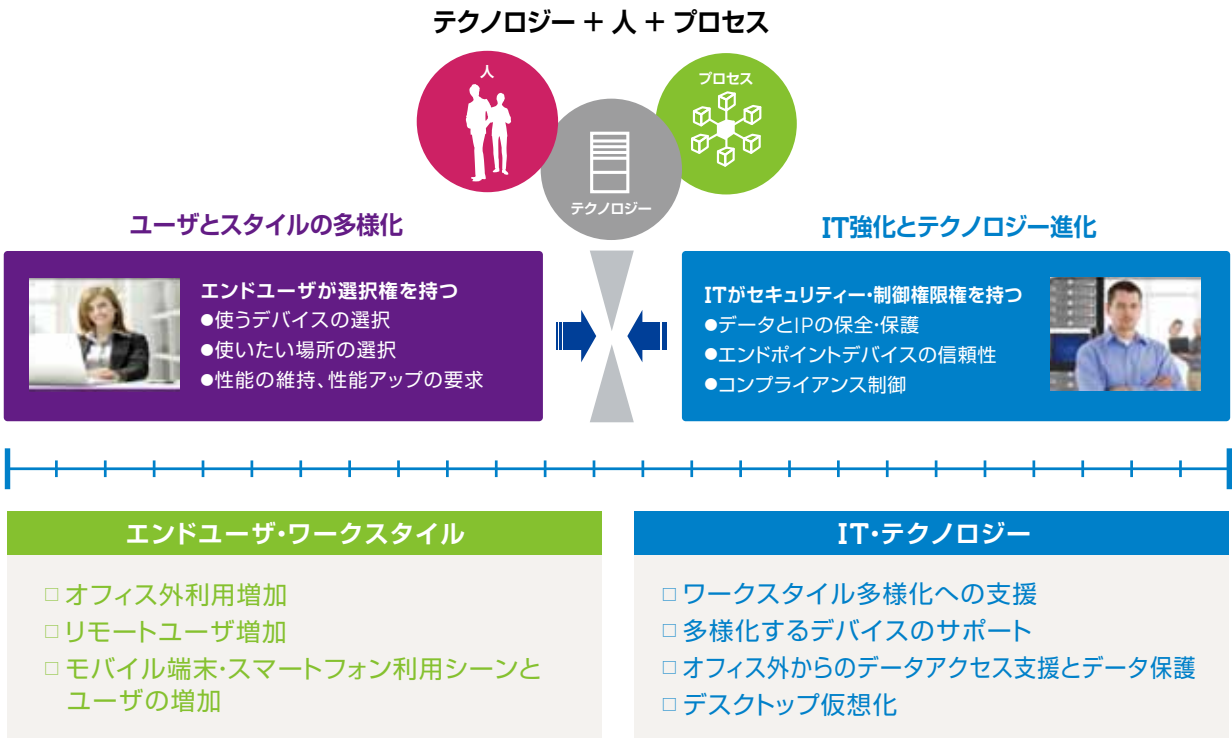
ITサービス即応性 効率化のステップ



ビジネス即応性 仮想化の進化形と効果



3 デスクトップ仮想化への動きとIT・ネットワーク・セキュリティ



今すぐ、営業担当にご連絡ください

経験豊富なプロフェッショナルが支援します！

お問い合わせ

0120-912-174

CSMBセールス本部
アドバンストシステムグループ 大森 直希





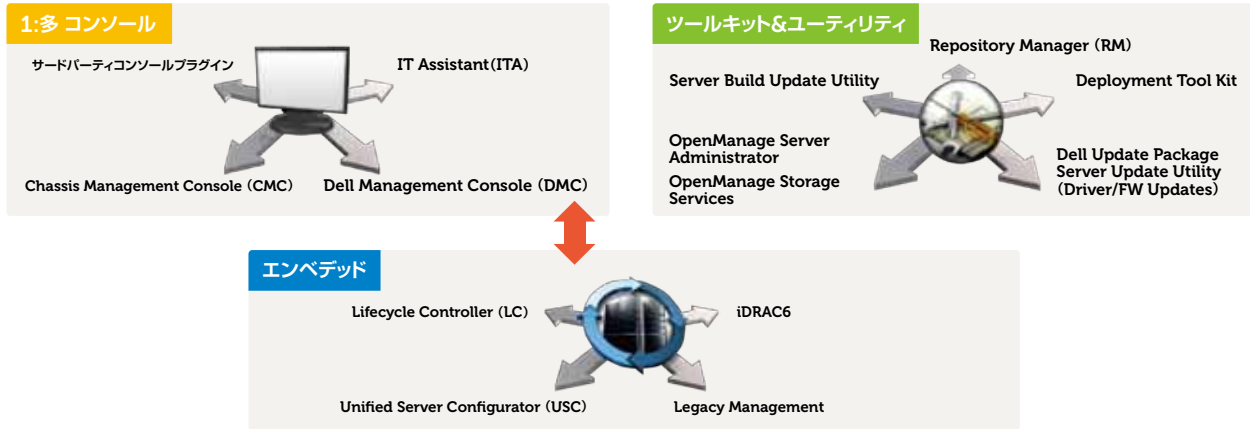
Solution : 02

運用管理の
合理化と自動化

システム・インフラ管理

サーバ、ストレージ、デスクトップ、アプリケーションと仮想化が広がりを見せる中、それらがもたらす便益かつ課題でもある、運用管理についても再考が求められます。集約することによる管理の簡素化と自動化がもたらされる一方で、ソリューション導入時の見通しとは異なる、仮想化された中での複雑性や、当初予定していた性能が確保できない事態が発生してしまう、といった課題が顕在化してくるケースがあります。IT機器・環境の効率的で実践的な運用管理には常に課題が伴います。クライアント、サーバ、ストレージ、ネットワークのハードウェアカテゴリ、ハードウェア、OS、アプリケーションそれぞれのレイヤ、構成要素間をシームレスに、そして包括的に管理し運用していく上で考慮しなくてはならない要素は多岐にわたり、複雑化してしまいがちです。マニュアルから自動化へ、オンデマンドからポリシーベースへ、といった運用管理方針の転換、新しい機器やテクノロジー導入に伴い複雑化の一途をたどるIT環境をいかにシンプルにしつつ運用管理を継続していくか。物理と仮想が混在する環境を効率よく確実に運用管理していくにはどうするか。自社では検知できていない潜在的な課題とその解決策はあるのか。リモートサイトの管理運用、可用性の確保にはどう設計し実施すればよいのか、等の課題を支援します。

1 デルOpenManage運用管理・エンベデッド運用管理製品ポートフォリオ

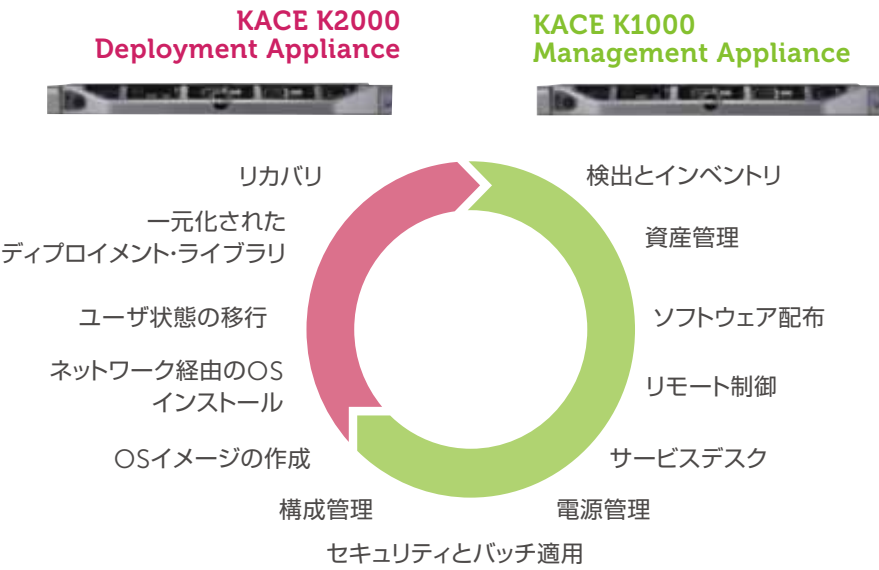


Solution:02



2 クライアント運用管理

デルKACE PCとサーバのライフサイクル管理



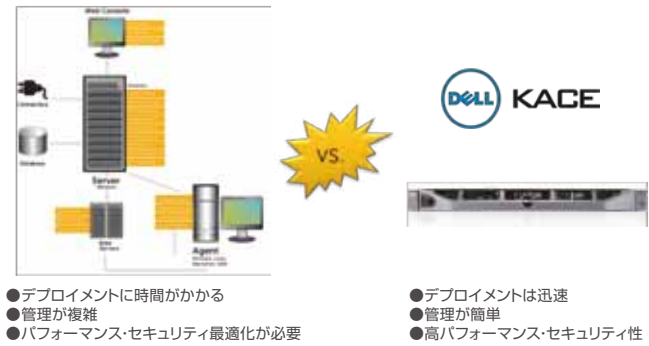
アプライアンス

シングルエージェント

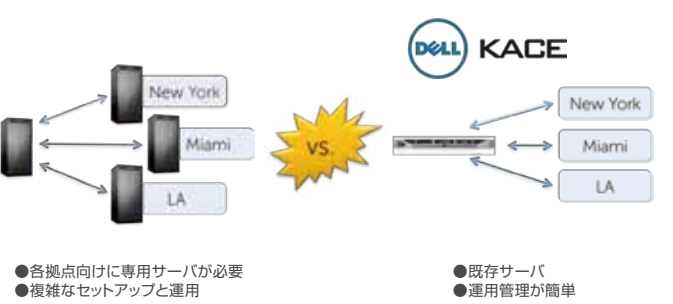
ビルトイン
リモートサイト管理

管理者視点の
使いやすいUI

アプライアンスの優位性
ソフトウェア:アセンブリが必要



リモートサイト管理をビルトイン
従来型のソフトウェア



今すぐ、営業担当にご連絡ください

経験豊富なプロフェッショナルが支援します！

お問い合わせ

0120-912-174

CSMBセールス本部
アドバンスドシステムグループ 土佐 勇





Solution : 03



業務・ ビジネスのための 運用管理

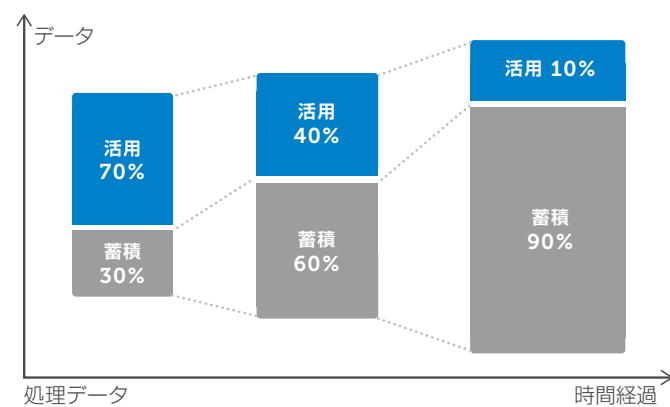


データ運用管理

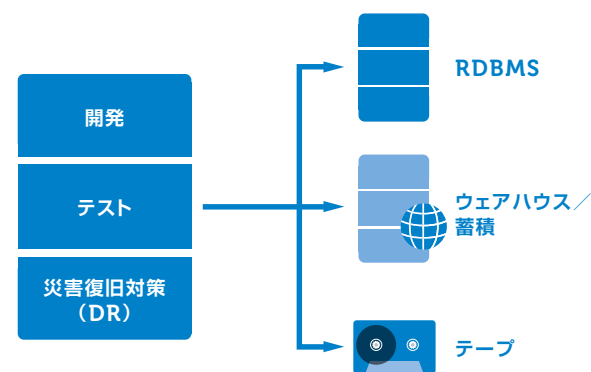
業務やビジネスには欠かせないデータの運用管理は避けては通れない課題です。多様化し、増大し続けるデータ、業務・ビジネス遂行と継続性に直接的な影響を及ぼすデータの管理ソリューションにはストレージ統合化・ストレージ仮想化が推奨されます。シンプロビジョニング、階層化、重複排除等のテクノロジーとソリューションの的確な選定と実装が求められます。データの保全性と継続性／コンプライアンス／ガバナンスの施策としてバックアップ／リストア／アーカイブを適所に的確に施すこと、そして、多様化と膨大化し続けるデータ処理の有効なプランを策定すること、データ集約と保護を確実に実施すること、災害復旧対策（DR）・業務継続計画（BCP）・業務継続管理（BCM）、等々の様々な課題についての解決策を施す必要があります。



① 大半が蓄積しておくだけのデータに時間経過とともに変質



② 日々の業務で生成される複製がストレージの課題に

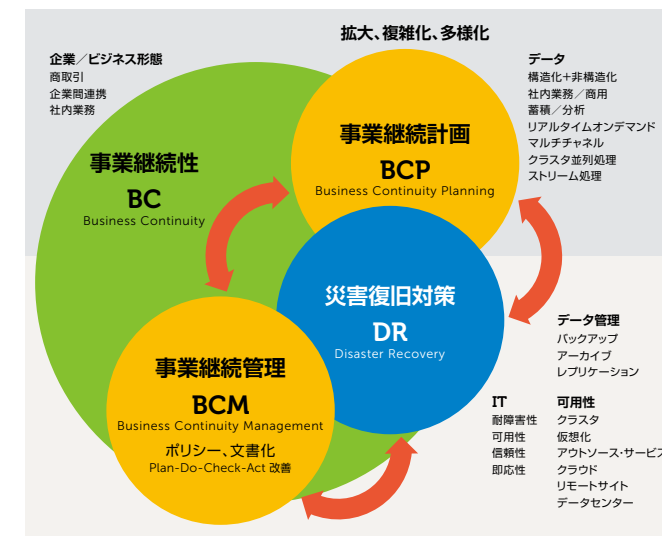


Solution:03

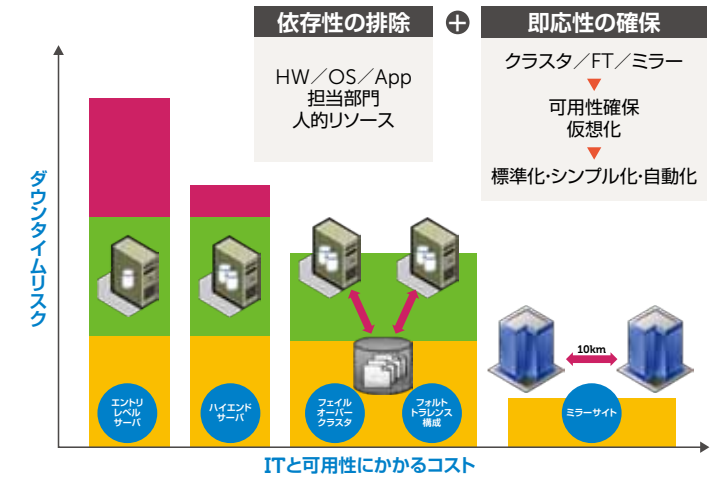


The power to do more

③ ビジネスにも業務にも不可欠なITシステムとデータの課題:多様化と肥大化への対応、可用性と保全性の確保



事業継続性：リスク vs. コスト vs. ポリシー・ソリューション



④ 可用性・サービス性が企業競争力を左右:運用管理性の確立と維持がキー



目標復旧時点：Recovery Point Objective

- データ損失の許容範囲
- データリストアする時点

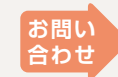
目標復旧時間：Recovery Time Objective

- オンライン復旧時点
- サービス復旧・再開までの時間



今すぐ、営業担当にご連絡ください

経験豊富なプロフェッショナルが支援します！



0120-912-174

CSMBセールス本部
アドバンスドシステムグループ 岩男 行祐



ビジネスユーザの幅広いニーズに応える デル製品のラインナップ

デル ビジネス向けデスクトップパソコンラインナップ

	Vostro	OptiPlex
対象企業様	SOHO、小規模企業	中規模以上企業
製品特長	低い導入コスト / 最新テクノロジー	安定性 / 信頼性 / 長い製品ライフサイクル / TCO 削減
標準サポート	1年間翌営業日対応オンサイト保守サービス	【プロサポート】3年間 翌営業日対応オンサイト保守サービス
高性能		990
スタンダード	360 260S/260	390 580 790 XE (産業用PC)
シンククライアント		FX130/FX170 シンククライアント
	拡張性	拡張性 / 管理性

プロフェッショナルユーザ向けワークステーションラインナップ

	モバイルPrecision	デスクトップ型/ラック型Precision
対象企業様	設計分野、解析分野、画像・映像制作、CG・コンテンツ制作	
製品特長	ハイパフォーマンス / 優れた拡張性 / 高度なグラフィックス性能 / ISV 認証	
標準サポート	【プロサポート】3年間 当日対応オンサイト保守サービス (平日のみ対応)	
デュアルソケット		T5500 T7500
シングルソケット	M4600 M6500	T1600 T3500 R5500 (ラック型)
	モバイル 性能	性能

ビジネス向けノートパソコンラインナップ

	Vostro	Latitude
対象企業様	SOHO、小規模企業	中規模以上企業
製品特長	低い導入コスト / 最新テクノロジー	安定性 / 信頼性 / 長い製品ライフサイクル / TCO 削減
標準サポート	1年間翌営業日対応オンサイト保守サービス	【プロサポート】3年間 翌営業日対応オンサイト保守サービス
大画面	3750 (17.3")	
スタンダード	1540 (15.6") 1550 (15.6") 3450 (14.0") 3550 (15.6")	E5420 (14.0") E5520 (15.6") E6420/ATG (14.0") E6520 (15.6")
モバイル	131 (13.3") 3350 (13.3")	ST (10.1") 2120 (10.1") E6220 (12.5") E6320 (13.3") XT3 (13.3")
	モバイル 拡張性	モバイル 拡張性

ビジネスに最適なタブレット



DELL Latitude ST

Latitude STは、タッチスクリーンタブレットでありながらWindows®を搭載可能な処理能力を有し、タブレットのモバイル性とDell Latitudeの管理性、セキュリティ、および互換性を兼ね備えています。

作業効率の向上に貢献

HDMI出力で、HDMI対応モニター/TVに接続して、より大画面で作業をすることが可能。オプションで、3基のUSBポートやギガビットイーサネットポート、電源ポートなどを装備したドッキングステーションを使えば、デスクトップ環境の代替としても利用可能。

ビジネススタイルを一新

持ち歩きやすい10.1インチのディスプレイを採用。静電式のタッチペンを使えば、的確にディスプレイ上のボタンを押すことができるし、細い文字を書くような感覚で文字を入力することもできる。また、前面/背面のカメラ搭載で、ビデオ会議はもちろん、外出先で高画質の写真を撮影して、そのままレポートやメールに添付して送るのも簡単に実現。

容易な導入&管理

Windows® 7を搭載したLatitude STなら、既存のシステム環境をそのまま利用可能のため、容易に導入、管理可能。TPMを内蔵しており、Microsoft® BitLocker™を活用して、重要な企業データを保護。

デル サーバ製品 ラインアップ

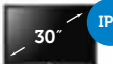
※型番の末尾番号が「**0」のものがIntel製CPU、「**5」のものがAMD製CPU採用のものとなります。

ソケット数	タワー	ラック	ブレード	超高密度
4ソケット		 R810/R815 2U R910 4U	 M910/M915	
2ソケット	 T410 T610  T710	 R410/R415 1U R510/R515 2U  R610 1U R710/R715 2U	 M710HD M710  M610 M610x	 C6100 2U C5220 3U /C6145 /C5125  C2100 2U C1100 1U
1ソケット	 T110II T310	 R210II 1U R310 1U	 シャーシ (M1000e)	
関連機器	 ラックエンクロージャ	 コンソールスイッチ	 電源装置 (UPS等)	 PCIe拡張シャーシ

デル ストレージ製品 ラインアップ

SAN (Storage Area Network)									
iSCSI (IP-SAN)	 PowerVault MD32x0i	 PowerVault MD36x0i	 EqualLogic PS4100シリーズ	 EqualLogic PS6100シリーズ	 EqualLogic PS6500シリーズ	 EqualLogic PS6010シリーズ	 EqualLogic PS6510シリーズ	 Compellent シリーズ	
ファイバチャネル (FC-SAN)	 PowerVault MD36x0f								
NAS (Network Attached Storage:ファイル共有用ストレージ)									
									
PowerVault NX200	PowerVault NX300	PowerVault NX3100	PowerVault NX3000	PowerVault NX3500	EqualLogic FS7500				
DAS (Direct Attached Storage:直接接続型ストレージ)									
									
PowerVault MD1000	PowerVault MD12x0	PowerVault MD32x0							
データ保護									
テープ	 PowerVault LTO シリーズ	 [LTO-5-140 HH LTO-4-120 HH]	 [LTO-3-080 HH LTO-3-060 HH]	 PowerVault 114T/114X	 PowerVault 124T	 PowerVault TL2000	 PowerVault TL4000	 PowerVault ML6000	
ディスク	 PowerVault RD1000	 PowerVault 114X	 PowerVault DL2200シリーズ	 DX6000シリーズ					

デル モニタ ラインアップ

シリーズ	17～20インチスクエアモデル		18.5～24インチワイドモデル			27～30インチワイドモデル	
Eシリーズ	 E170S	 E190S	 E1912H	 E1911	 E2011H		
			 E2211H	 E2210	 E2311H		
プロフェッショナル シリーズ	 P170S	 P190S	 P1911	 P2210			
			 P2212H	 P2312H	 P2412H		
デジタル ハイエンド シリーズ	 2007FP		 U2212HM	 U2312HM	 U2412M	 U2711	 U3011
			 U2410				

Eシリーズ

デルの品質と購入しやすい価格設定で、基本的なオフィスアプリケーションに対応。

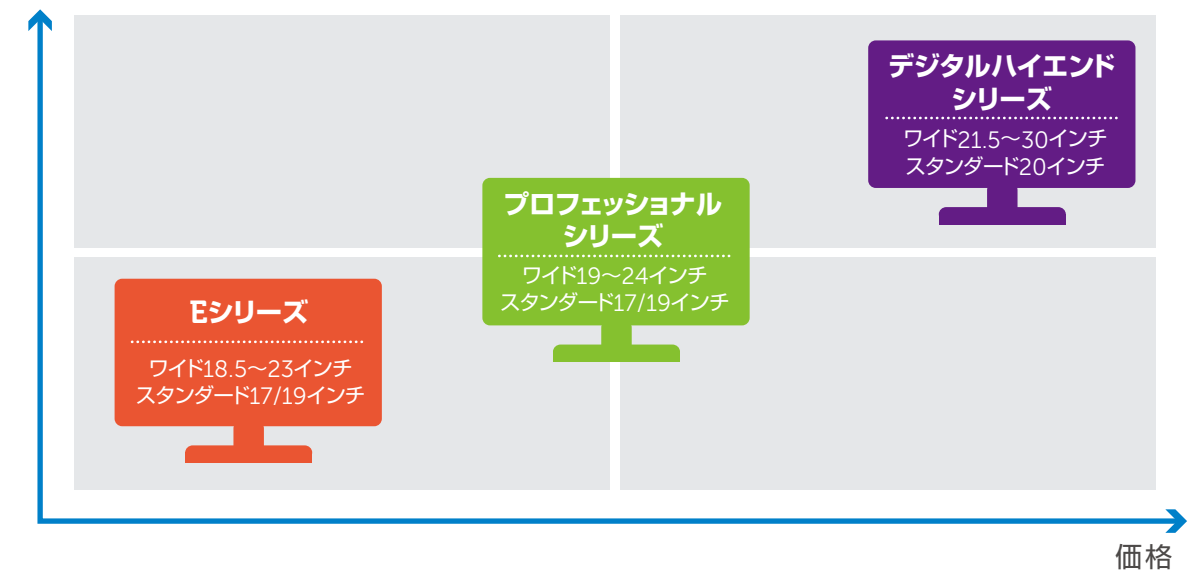
プロフェッショナルシリーズ

柔軟性に富んだ表示オプション、多様な接続方法、およびデルのプレミアムパネル保証を社内標準仕様に。

デジタルハイエンドシリーズ

妥協のない精度、高度な機能とパフォーマンスによる卓越した表示機能、優れた色彩と動きをスタイリッシュなデザインで実現。

パフォーマンス



24時間365日お電話対応から
全て日本国内対応の充実サポート!

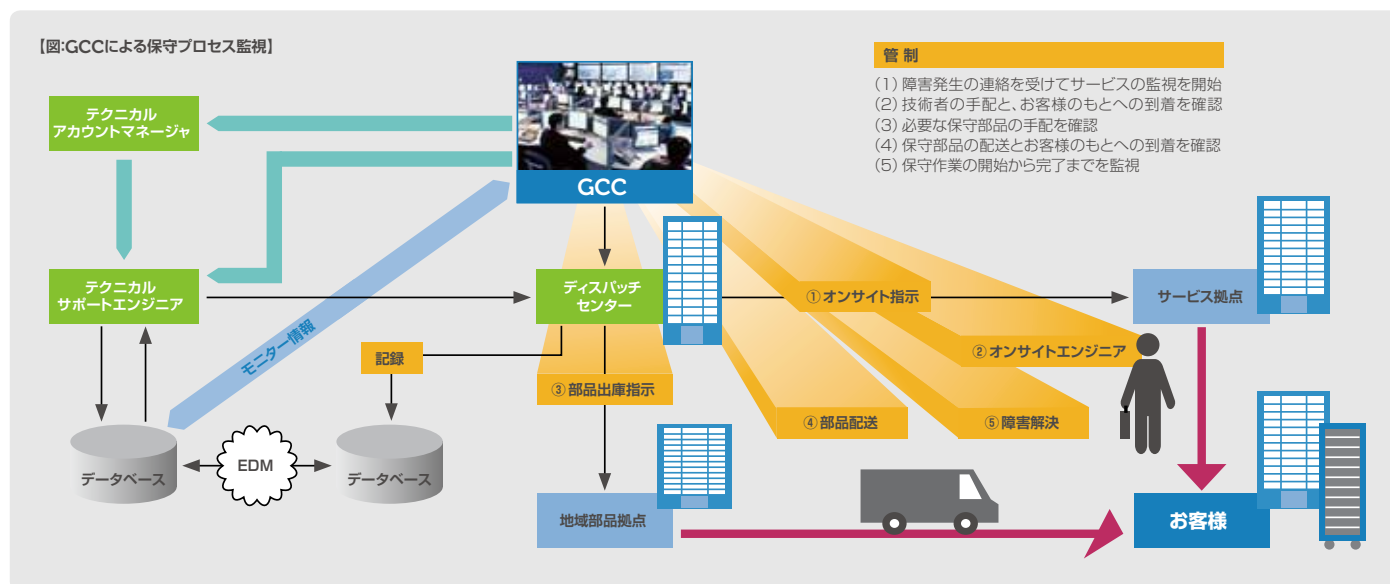
プロサポートサービス概要

デル プロサポートは、グローバルのベストプラクティスに基き、お客様のIT投資の保護を目的として提供されます。

デル プロサポートの特徴

- 24時間365日対応の電話サポート
- リモート診断(電話での障害内容切り分け)後の翌営業日対応オンサイトサービスによるパーツ発送とエンジニア派遣による修理
- エスカレーション管理:デルのテクニカルアカウントマネージャ(TAM)チームがインシデント単位で重要度の高い問題に対処することにより、障害対応時間を節約可能
- 一般的なサードパーティ製アプリケーションに関する操作方法のガイド
- ミッションクリティカルなどの特別な要望にお応えする豊富なオプション

デル プロサポートのオンサイトサービスの実施状況は、グローバル・コマンド・センター(GCC)により24時間365日監視されています。障害が発生した際、お客様の情報システム部門や保守を担当するパートナー企業と迅速に連携、問題をスムーズに解決します。



一部機種向けベーシックハードウェアサポートに関する補足

デルの法人向けサポートサービスでは、ハードウェア・ソフトウェアを包括的にデルの上級エンジニアがカバーする『デル プロサポート』に加えて、ハードウェアサポートに限定することにより低コストを実現した、『デル ベーシックハードウェアサービス』が一部機種向けに選択可能です(一部機種では標準で設定されています)。プロサポートとベーシックハードウェアサポートの違いは次のとおりです(2011年11月現在)。

	デル プロサポート	デル ベーシックハードウェアサービス
営業時間内サポート:各地域の営業時間内の電話サポート	✓	✓
24時間365日体制のサポート	✓	✗
一般的なアプリケーションに関する操作方法ガイド	✓	✗
重大なイベントのエスカレーション管理	✓	✗
返却修理	✓	✓
リモート診断(電話での障害内容切り分け)後の翌営業日対応オンサイトサービスによるパーツ発送とエンジニア派遣による修理	✓	✓
お客様自身による/パーツ取替えが必要な場合あり(カスタマーセルフリプレースメント、CSR)	適用なし。 CSRパーツであってもデルのエンジニアが交換	必須CSRパーツについては、 お客様自身が交換
当日対応のパーツ発注とエンジニア派遣による修理	アップグレード可能	✗
ミッションクリティカル対応当日4時間対応または2時間対応から選択可能なオンサイトへのパーツ発送とエンジニア派遣による修理(対応可能地域は別途ご確認ください。)	アップグレード可能	✗
ITアドバイザーサービスインシデントのレポーティング、分析、およびサポート計画	詳細については、 デルの営業担当者にお問い合わせください	✗

オンライン・ストア ▶ www.dell.jp/service-support

IT運用管理において必要とされるのは、問題の迅速・円滑かつ的確な解決や復旧、業務生産性維持・向上やビジネスゴール達成のための最適な施策です。

サポートサービスで、迅速・円滑にお客様を支援し、そしてより高いレベルの保守提供や技術支援を提供するために、デルではお客様の声に耳を傾け、改善の取り組みを行っています。

デルの法人サポートは日本国内で運営しています

テクニカルサポート (コールセンター)

- 法人のお客様は日本のコールセンターで対応
- 待ち時間を短縮(担当者につながるまでの音声ガイダンスを改善)
- 電話が込み合う時間帯のホームページへの掲載
- メール/チャットサポート、ご希望の時間帯に折り返し連絡をする電話予約システムの導入
- プロサポート窓口には高い技術と幅広い知識をもつ専任担当を配置。これにより、問題解決に至るまでの時間を大幅に短縮

オンサイト修理

- 当日/翌営業日オンサイト修理サービスでは、離島、遠隔地等を除きほぼ日本全国をカバー
- プロサポートでは、障害対応に精通したスキルの高いエンジニアが迅速かつ的確に対応し、早期解決を支援
- グローバルコマンドセンターによる24時間365日の監視体制で、お客様へのサービス提供への影響を最小限に

サービスパーツ

- ダイレクトモデルの特長を生かした保守部品配備(システム設置拠点を登録いただくことで最寄りの拠点に主要パーツを配備し、問題に対して迅速にパーツ配送を実現)
- 延長保守サービスの提供

PC入替やPC環境刷新を支援します! ~PC買取プログラム~

デル製、他社製を問わず、リプレース対象のPCを買い取ってキャッシュバック。弊社パートナーが指定場所で引取・配送、またパートナー引取センターでラベル剥離・HDDデータ消去を実施。

- 対象エリア:日本国内
- 買取対象製品:デスクトップPC、ノートブックPC、液晶モニタ

※対象となるPCの買取価格(キャッシュバック金額)が1件当たり税込3,150円以上、弊社約款に同意いただくこと、等利用条件がございますので、詳細はwww.dell.jp/SMB/pc_buybackをご覧ください。お気軽にお尋ねください。

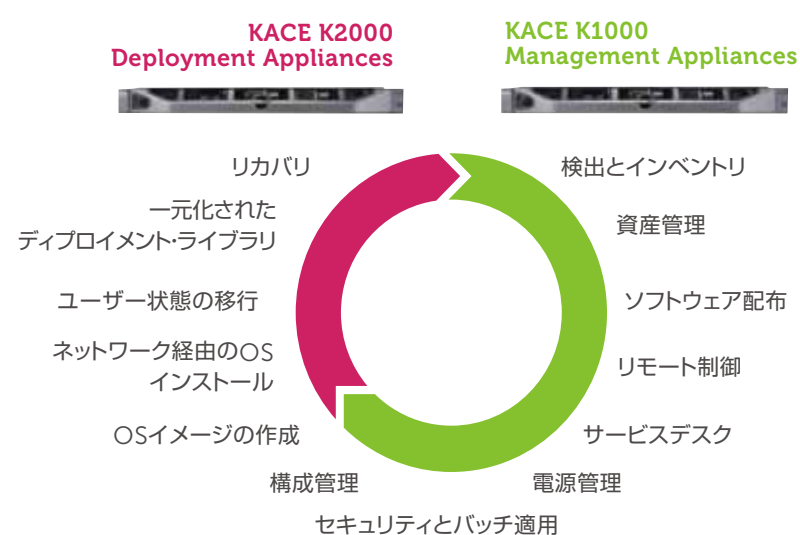
今すぐお電話ください ▶ 0120-912-174

〈営業時間〉平日/8:00~20:00 土曜/10:00~18:00(日曜・祝日休み)
自動音声ガイダンスに接続後、担当部門に転送されます。(携帯電話からも繋がります)

効率的なシステム管理でより戦略的なIT投資を!

システム管理、特にクライアントPCの資産管理やセキュリティ対策に求められる要件は、年々複雑化しています。ハードウェアやOSのマルチベンダー化、次々と現れる新手のマルウェア、ソフトウェアライセンスのコンプライアンス対応など……。管理の手間は増えることはあっても、減ることは決してないように思われます。デルの新しいアプライアンスベースの統合管理ツール「KACE」は複雑な運用管理をシンプルにし、管理者の運用管理にかかる時間を大幅に削減します。

コンピュータのライフサイクル管理



オールインワン

KACEアプライアンスにはPCとサーバのライフサイクル管理に必要な機能が最適化されて標準搭載されており、カスタマイズの必要はありません。その機能は全て連携しており、追加のハードウェアやソフトウェアが不要です。

使いやすい

アプライアンス型の管理ツールは、システム管理に必要な機能があらかじめビルトインされているため、手軽にインストールして使うことができます。セルフインストールが基本で、通常1日で設置が完了し、その日から使うことができます。またシンプルなウェブインターフェースで簡単に習得/活用が可能です。

低コスト

迅速な導入・設置が可能で、ソフトウェアベースのソリューションと比べると追加のコンサルティングサービスやサーバ・OSなどが不要なため、TCOを低く抑えることができます。

マルチOS、 マルチ言語環境の管理をシンプル化

ベンダーが多岐にわたるハードウェアやOSの管理は複雑で全体を把握することは困難です。Windows、Mac OS X、Red Hat LinuxのマルチOSをサポートし、日本語・英語・中国語を含む多数の言語に対応するKACEは、複雑な管理をシンプルにし、管理者の手間を大幅に省きます。

こちらの
サービスは
無償です

DPACK



無駄はありませんか? お客様のデータ管理

DPACK(ディーパック) を活用した 無償のストレージパフォーマンス評価サービスを 是非ご活用下さい!

「サーバやストレージを導入したけれど、
効率的に利用できているのか分からない…」

「増え続けるデータに対して、有効な対策を
考えたいが、現状を把握するのが難しい…」

このようなデータ管理の問題でお困りのお客様、是非デルにご相談下さい!

経験豊富なプロフェッショナルが支援します! お問い合わせ ☎ 0120-912-174

DPACK(ディーパック) とは?

お客様が運用されているシステムの情報を収集し、パフォーマンスを診断するプログラムです。レジストリの書き換えは必要ないため、お客様のシステムへの影響はほとんどありません。

? ストレージパフォーマンス 評価サービスで何ができるの?

お客様のシステムにおけるストレージの状況(記憶領域の使用状況等)を把握することができます。

- お客様のデータ管理に関わる課題を解決していくにはどのようなアプローチが最適かを見極める上で現状を正確に把握することが重要です!
- 評価結果はレポートとして無償で提供され、現状の課題を視覚的に、かつ詳細に理解することが可能になります。



? 具体的な利用イメージは?

ストレージパフォーマンス評価は3ステップで簡単にご利用いただけます。

- 1 申込みサイトに登録
- 2 デルからDPACKのご利用方法についてご案内
- 3 デルの専門家から評価結果をご報告



サービスに登録して
USBメモリをゲット

ストレージパフォーマンス評価サービスをご利用いただいた先着40名様に
デル オリジナルUSBメモリ(16GB)を差し上げます!

データ管理でお悩みのお客様、是非この機会をご活用下さい!

申込みサイトのリンク ➡ <https://marketing.dell.com/JP-DPACK>